

教育心理劇の技法

One person psychodrama と Marketing の技法

松村 康平

お茶の水女子大学 家政学部

[立場] 関係弁証法(関係理論・役割技法)
 Freud: 治療場面における治療者・患者の、
 2者関係の認識にむとづき、患者に即した1者関
 係的技法が主として展開される。それは、自由連
 想法といわれ、患者の過去体験が重視されている。
 「以前を、ここで」の原則に立つ。

Moreno: 治療場面における監督および補助
 自我・演者・観客たちの、対人関係の「内的認識」
 にむとづき、患者に即した2者関係的技法が主と
 して展開される。それは、Role reversal,
 Doubling, Mirroring などといわれ、
 患者の現在(および過去)体験が重視されている。
 「今は、ここで」の原則に立つ。

私たちの場合: 教育・治療場面における監督
 および補助自我・演者・観客たちの、対人関係の
 「内・外的認識」にむとづき、教育・治療関係に
 即した3者関係的技法が主として展開される。そ
 れは、Tripling, 集異化の技法, 拡散化の技
 法その他であり、また、併用される技法として、
 小集団運営の技法である Buzz 法や、相談技法
 である3者面談法などがある。「今、ここで、新
 しく」の原則に立つている。(参考文献: 日本
 心理学会第29回大会研究発表論文集, 「心理劇
 -対人関係の革新-」, 「児童臨床学-児童学論文
 集-」)

[技法] 場面状況AからBへの展開を、場面
 設定および対物・対人・対自己関係の操作によっ
 てもちたらし、所期の教育目的を達成する心理劇的
 方法。(例: 道徳教育の技法については、雑誌道
 徳教育 No. 48~50, 明治図書, 参照。)

心理劇の役割技法: 監督・補助自我・演者・
 観客および舞台に関する諸技法; 役割操作(役
 割投入ほか)・役割交代・役割転換などの技法

心理劇の関係技法: 対自関係技法(独自の技
 法ほか)・対物関係技法(物理的連結強化の技法
 ほか)・対人関係技法(Doubling, Tripling
 ほか)。

心理劇展開の技法(一般): 軽減法・加重法・
 重畳法; 唯一法・初発法・中断法; 再現法;

両極法・鏡映法ほか。

心理劇展開の技法(特殊): 舞台へ誘導する技
 法; 演者の発言ととらえて他の演者(観客)と
 連結を強める技法; おちこぼれとなくす技法(C
 lean up の技法); 展開を阻止発言に対処する
 技法; 観客の発言ととりあげする技法; 観客の期待
 の昇格を促す技法; 全員が発言をさそう技法;
 劇の総結をむらさす技法ほか。

劇体験明確化の技法: 現象的自己の把握法;
 自己関係の変化体験把握法; 情況関係認知法;
 空想関係体験の把握法(空想1者関係体験法; 空
 想2者<多者>関係体験法ほか); 関係参加体験
 法; 関係変化体験法(参加漸増法・漸減法など
 による); 関係力動体験法(関係自由運動法など
 による)(参考文献: 「臨床心理学」朝倉書店。)

劇・場面状況展開の技法(小集団指導の技法):
 集異化の技法; 拡散化の技法; 集異・拡散化,
 拡散集異化の技法, ほか。

[教育心理劇の Demonstration]

Chicago Teachers College の Pro.
 Rose Brandzel が、1965年9月か
 ら5月にかけて来日。心理劇研修会が、東京(お
 茶の水女子大学児童臨床研究室; 日本心理劇協
 会主催)と京都(京都女子大学; 深山富男氏ほか)
 でもたれた。(「日米交際心理劇研究会」はこれ
 が2回目。第1回目は、1961年8月にもたれた。
 そのときは、「Nonverbal Psychodra
 ma」を主とし、Doubling の技法その他が、
 Leon Fine 夫妻によって導入された。)東
 京会場では、日本における教育心理劇の Demon
 stration を中心に、技法の紹介がおこなわれ
 た。そのときの全遊の1部と、技法の1端を示す。

<One person psychodrama>

- 導入部 -

監督(D. 松村)以外の全員が演者になる体験
 をする(全員参加の心理劇)。B(Pro. Brand
 zel)はN(中村, ときに補助自我, 副監督の
 通訳の役もする)の役割ととり、2人ひと組で参

